



パレーシア、率直に語る勇気

中川雅道（神戸大学附属中等教育学校）

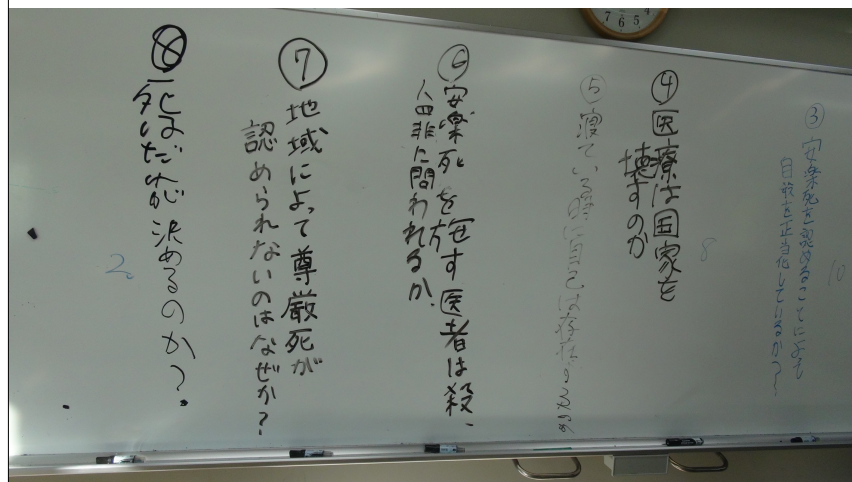
“パレーシアにおける危険は、語られた真理が相手を傷つけるか、怒らせるかもしれないという事実によって生まれるものだからです。ですからパレーシアはつねに、真理を語る者と、真理を聞く者との「ゲーム」という性格をおびています。……パレーシアの機能はだれかに真理を示すことではありません。批判する機能を果たすのです。”

-フォーコー、一四頁

“パレーシアステースの真摯さを「証明する」ものは、その勇気です。”

-フォーコー、一四頁

批判は生の経験から離れず
困難な状況にも関わらずに
それでも行われる



Intellectual Safety

映像は
どう見えるでしょうか？

知人が自ら死を選ぶしたらどうすべきか？

<https://youtu.be/UPUqN-w405A>

に学会で発表した映像を掲載しています。

教材「高瀬舟」中学校3年生 20名程度 12:13

進行役と質問者

- ・ 「高瀬舟」の解説→問いの意味を説明→問いの意図を問いの提出者に確認（問いは多数決で決めた）
- ・ 知人は大切な人、できれば死んで欲しくない人と問いに含まれる言葉の意味を説明
- ・ 意見がある人は？と問いかけて周りを見渡す
- ・ 残りの時間、自分が喋る時以外は聞いている進行

話さない人たちの変化

- ・ まとまってない→パス→パス
- ・ 他の人の経験から触発されて→真剣に語り始める
- ・ それを受けて、生きる目的の吟味へ

中川の介入

- ・ 生きる目的があるならば生きる
- ・ しかし、いつも目的があるから生きているのか？
- ・ いや「死にたくないから生きている」のだ（答えの定式化）

矛盾

- ・ 自分で自分自身を表現できなくなったら死ぬ（この発言は部分的に高瀬舟の内容を検討している）
- ・ 「死にたい」への応答によって、矛盾が起きる
- ・ うん→受け止められたかんじ
- ・ だめだ→受け止められない
- ・ 進行役による転んだ時の母の対応の話へ

批判は生の経験から離れず
困難な状況にも関わらずに
それでも行われる

P4Cは何を変えたのか？

問い 「子どもが自ら発言を促している」 どうですか？

対話の評価してください（該当するものに○をつける）。

議論は楽しかったですか？			
安心して話せましたか？			
深く考えることができましたか？			

上のよう評価した理由を書いてください。

「子どもが自ら発言を促している」が、この活動の目的である。そのことを、この活動を通して、深く考えることができた。不慣れな活動だが、おもしろいと感じた。子どもたちも。

問い 「子どもが自ら発言を促している」 どうですか？

対話の評価してください（該当するものに○をつける）。

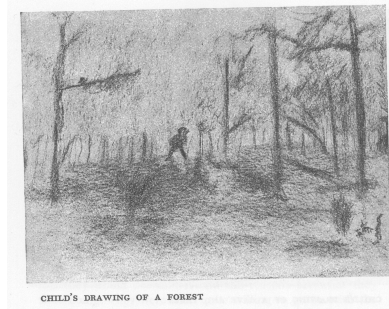
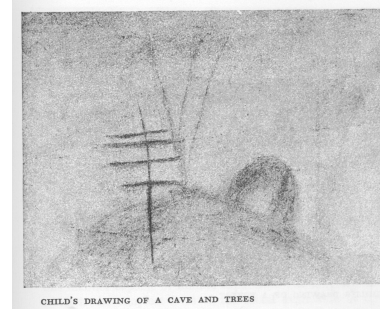
議論は楽しかったですか？			
安心して話せましたか？			
深く考えることができましたか？			

上のよう評価した理由を書いてください。

「子どもが自ら発言を促している」が、この活動の目的である。そのことを、この活動を通して、深く考えることができた。不慣れな活動だが、おもしろいと感じた。子どもたちも。

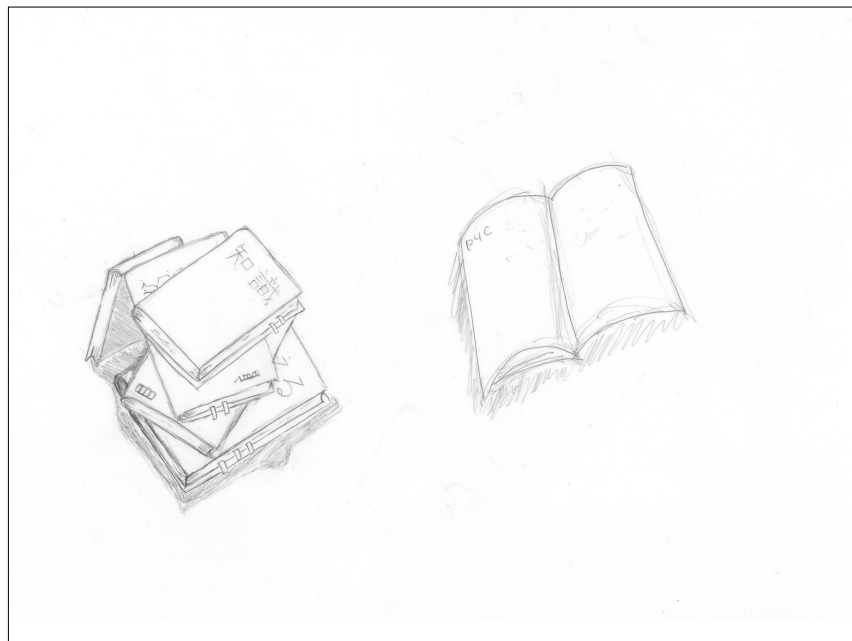
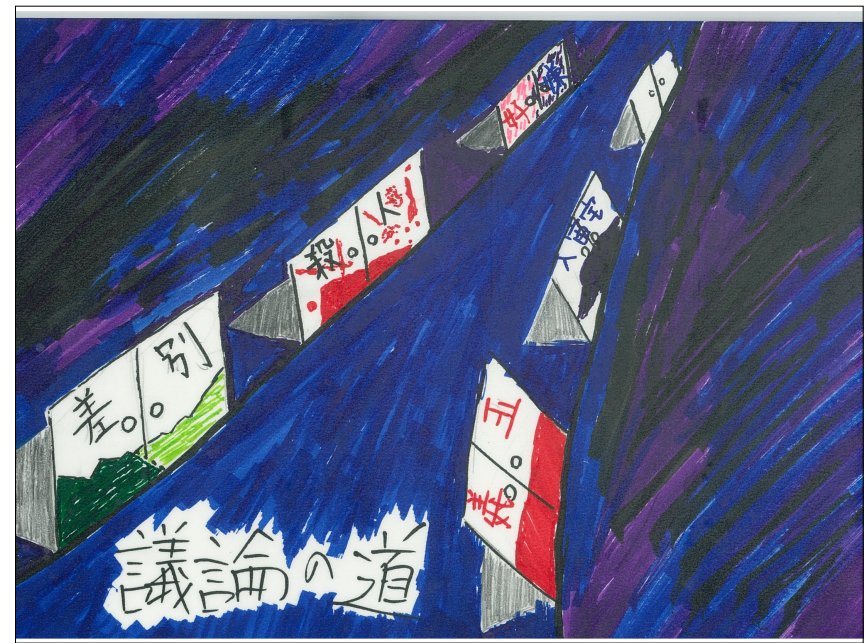
今日の議論は、子どもたちが、自分たちの考えを、自由に発言することができた。とてもよかった。

John Dewey, The School and Society



- ・ P4Cはあなたにとってどんな授業ですか、というテーマで作品を作りました。
- ・ 2014年度、2015年度で作品がどう変わったのかを考えてみたい。







- ・ ミシェル・フーコー『真理とディスクール パレーシア講義』中山元訳、筑摩書房、二〇〇二年。
- ・ マシュー・リップマン『探求の共同体 考えるための教室』河野哲也ほか訳、玉川大学出版、二〇一四年。
- ・ 田中美知太郎『ロゴスとイデア』岩波書店、一九四七年。
- ・ ジョン・デューイ『学校と社会 子どもとカリキュラム』市村尚久訳、講談社学術文庫、一九九八年。